

## 第37回全国選抜高校テニス大会レポート

全国高等学校体育連盟テニス専門部  
副部長 内藤 美明

### 《 開会式 》

第37回全国選抜高校テニス大会が、平成27年3月21日に始まりました。今大会より、全ての出場校のNo.1の選手が個人戦に出場できるようになりました。そして、団体戦と個人戦の両方とも同一会場、博多の森テニス競技場で開催されることになりました。ただし、個人戦の初日は、春日公園テニスコートを使用して行って、二日目から団体戦と同じ会場で行われました。



開会式では選手を代表して、北海道札幌西高等学校、寺嶋祐大主将が「郷土の代表として出場していることに誇りを持ち、私たちを支えて下さる全ての方々に感謝して精一杯戦います。」と爽やかに宣誓しました。



開会式の入場行進の演奏を務めたのは、福岡大学附属若葉高校吹奏楽部。司会は、筑紫女学園放送部。合唱は、福岡大学附属大濠高校合唱部。また、歓迎アトラクションでは、玄界高校邦楽部のシンセサイザーと和太鼓のコラボという素晴らしいパフォーマンスで開会式を盛り上げてくれました。。このように全国選抜高校テニス大会は、多くの高校生の支えによって成立しています。

### 《 団体戦 》

男子ベスト8は次の学校。相生学院（兵庫）、柳川（福岡）、松商学園（長野）、大分舞鶴（大分）、四日市工（三重）、京都外大西（京都）、岡山理大付（岡山）、東京学館

浦安（千葉）。近畿2校、九州2校、北信越1校、関東1校、東海1校、中国1校。シード校の相生学院、大分舞鶴、四日市工、そして、シード校の東京学館浦安に勝利した岡山理大付がベスト4まで勝ち上がりました。



男子優勝は、四日市工。相生学院との決勝戦は、室内コートで行われました。3面進行で行われた決勝戦は、シングルス1、2のファーストセットはシーソーゲームの展開でしたが、終始試合を優位に進めた四日市工が初優勝を成し遂げました。

女子ベスト8は次の学校。仁愛女（福井）、秀明八千代（千葉）、城南学園（大阪）、京都外大西（京都）、沖縄尚学（沖縄）、相生学院（兵庫）、野田学園（山口）、白鵬女（神奈川）。近畿3校、関東2校、北信越1校、中国1校、九州1校。シード校の愛知啓成が3回戦で京都外大西に、同じくシード校の山村学園が初戦で白鵬女に敗れるという波乱があり、優勝の行方が……。ベスト4は、シード校の仁愛女、沖縄尚学、そして、ともにノーシードから勝ち上がった京都外大西、野田学園の4校。

女子決勝は、ノーシードから勝ち上がった京都外大西対シード校の沖縄尚学。どちらも初優勝をかけての決勝戦でした。シングルス1は、京都外大西。シングルス2は、沖縄尚学で1-1。ダブルス2は、京都外大西が勝って、2-1。しかし、シングルス2は、沖縄尚学がファーストアップでセカンドセットリード。勝負の行方は、ダブルス1のファイナルセットへ。6-4で京都外大西が勝って、念願の初優勝に輝きました。

## 《 個人戦 》

今大会から個人戦は、団体戦に出場しているチームのシングルス No.1 の選手全員出場して行われました。個人戦初日は予選と称して春日公園で行われました。2日目からは、本戦と称して、団体戦と同一会場で行われました。

男子ベスト6は次の選手。島袋将（四日市工）、楠原悠介（岡山理大付）、恒松優也（大成）、望月勇希（清風）、小林雅哉（東京学館浦安）、大島立暉（相生学院）。決勝戦は、恒松対望月。鋭いカウンターで終始試合を優位に進めた望月が6-3、7-5で優勝を決めました。

女子ベスト6は次の選手。大塚芽生（京都外大西）、向井マリア（城南学園）、松田美咲（浦和学院）、清水映里（山村学園）、上田らむ（相生学院）、リュウ理沙マリー（沖縄尚学）。決勝戦は、松田対清水。激しいストローク戦を制した清水が6-7、6-3、6-2で優勝を決めました。



《 終わりに 》

第37回大会から団体戦出場校のシングルス No.1の選手が全員、個人戦に出場することができるようになりました。そして、団体戦と個人戦が同一会場で行われるなど、大会運営に携わって頂いている方々の選抜大会をもっと盛り上げて行こうという気持ちがとても良く伝わってくる大会でした。しかし、このような変更は、大会を運営して頂いている福岡県高体連テニス専門部の先生方や補助員の高校生の素晴らしい働きがあったからだと思います。午後9時前までかかった試合もありました。しかし、今大会は、全日晴天に恵まれ、雨に1日も悩まされることの無かった大会でした。団体戦と個人戦を同一会場で、そしてシングルス No.1の選手が全員個人戦に出場するという過密スケジュールを必ず成功させるのだという高い意識で取り組んで頂いたことに対して、心より敬意と謝意を表します。

また今大会は、団体戦も個人戦もどのチーム、誰が優勝するのか全く解らない大混戦だったように思います。連日、どの試合も熱い感動を見る者に与えてくれました。これは、大会を陰で支えて下さった大会関係者と補助員の生徒達の素晴らしい働きがあったからだと思います。そして、明日からは次の戦い、MTP北村で開催される「2015 君が造る 近畿総体」での熱い戦いを期待して、大会レポートを終わります。





